

辺野古新基地建設阻止にはずみ

▶目標を大きく超える国会請願署名を提出!!◀

衆議院議長・参議院議長宛に提出▶「7. 18沖縄県議会決議を尊重し、辺野古新基地建設の断念を求める請願署名」は、個人48,316筆、団体462筆と目標(3万筆)をはるかに超えた。辺野古への基地建設を許さない実行委員会(辺野古実)は、2月3日に院内集会を開催して52名の紹介議員を通じて衆・参両議院の議長に署名を提出、同日夜に報告集会を開催した。辺野古現地のオジイ、オバアも喜んだ。

院内集会▶2月3日午後1時半から3時過ぎまで参議院議員会館の会議室で「請願署名提出2. 3院内集会」を開催、130名が参加した。紹介議員のうち14名の議員と11名の秘書が参集、数千筆ごとの署名用紙の束を手渡して議長への提出をお願いした。衆議院はすぐに解散されるのでもったいないという声もあったが、ほぼ両院折半で提出した。渡嘉敷喜代子さん(沖縄県議会議員、米軍基地関係特別委員長)が決議の瞬間(7月18日)の議会と傍聴席との興奮を感動的に伝え、安次富浩さん(ヘリ基地反対協議会)が日本に主権がなくアメリカの属国であることを嘆き、主権者たる私たちが自公政権にNOを、と訴えた。沖縄等基地問題議員懇談会の今野東議員(民主党)は、オバマ米大統領に期待していない、新駐日大使になるとされているジョセフ・ナイは民主党が拒否するなら反米行動とみなすと言っている、麻生政権に沖縄の決議を上げていきたい、と熱く語った。照屋寛徳議員(社民党)が、沖縄では人類の生存をかけた3つの闘い(辺野古の新基地建設、東村高江のヘリパッド建設阻止闘争、泡瀬干潟埋め立て反対の闘い)がある、3つの闘いを全世界に広げて闘おう、と集会を結んだ。なお、辺野古実が参議院で辺野古基地建設反対の決議をと訴え、数人の議員が呼応してくれた。更に追求していきたい。

報告集会▶同日夜、文京区民センターで「署名提出2. 3報告集会」を開催し、約100名が参加した。まず、院内集会の動画を早送りで見、次に安次富さんが現況と今後について詳しく

熱く訴えた。続いて、SDCC(ジュゴン保護キャンペーンセンター)の蛭川義章さんが、昨年10月のIUCN(国際自然保護連合)で「2010年国連国際生物多様性年におけるジュゴン保護の推進」を訴える3回目の勧告が採択され、2010年生物多様性条約第10回締約国会議が日本を議長国として開催されることを説明した。

辺野古阻止で日米同盟をつぶそう▶辺野古現地の座り込みは「8年(命を守る会座込み)+1760日目」(2月11日現在)に達し、環境アセスメント調査を監視し続けている。防衛省は、辺野古沿岸の現況調査を進め、キャンプシュワブ陸域の造成工事をアセス無しで赤土を流出させながら強行している。が、県知事や名護市長は今も沖合への移動を求めており、グアム移転には米海兵隊内部に反対論が根強い。日米政府には、再編事業の停滞は日米同盟の形骸化につながりかねないとの判断があり、それゆえのヒラリー・クリントン米務長官来日と「グアム移転協定」締結であろう。自公政権がつぶれる前に、総額28億ドル(上限)の日本側財政支出を規定し、在日米軍再編行程表の順守を明記し、再編促進と同盟強化を演出するらしい。しかしそうはさせない。日本政府が言う「抑止力の維持」は「攻撃力の維持・増強」であり、連日沖縄紙に報道される基地被害が「沖縄の負担軽減」もまやかしかることを県民に認識させている。引き続き、「住民の生活と自然を破壊する殺しのための基地を私たちの血税で作るな」と強く訴え続けよう。

ところで、国会請願署名は、2月3日の提出後に大分県から78,000筆の郵送があり、2月10日現在127,000筆に達した。多くの方の意志を国会に届け、政府やマスコミに訴え、新基地建設阻止の大きなうねりを巻き起こしていきたい。パッケージ論を逆手にとって、辺野古から日米同盟に風穴を開けるチャンスである。

(木村雅夫/新しい反安保行動をつくる実行委員会)

右派の圧勝となったイスラエル総選挙。特に国内のアラブ人追放を公然と唱えるチョー右派「我が家イスラエル」の躍進は、予想通りとはいえず不気味だ。30年前にロシアからイスラエルに移民して来た党首リーバーマンが、この地に先祖代々住んでいるアラブ人の排斥を唱えるなんて、転倒している。「よそ者は出て行け」って、私も一瞬右翼になってコイツにぶつきたいよ。▶家族や家、土地。それらは個人の

憲喧嘩

生活史と結びついた「かけがえのないもの」であり、だからこそ容易に他者排斥に利用される。「我が家イスラエル」を脅かすアラブ人に人権はない、ってか。▶パレスチナ社会を理想化するわけではないが、お客になると「ペイト・ペイタック(ここはあなたの家ですよ)」という言葉で迎えてくれる、あの彼らの家が壊され続けていることを、一日に何度でも思い出そう。(あ)

ピースリンク広島・呉・岩国◇結成20周年へ

1989年2月25日に雷雨の中、呉勤労会館において故・山川暁夫さんを発足集会の講師として迎え、「入れるな核艦船！ 飛ばすな核攻撃機！ ピースリンク広島・呉・岩国」として活動をスタートしてちょうど20年を迎えます。

84年、核弾頭が搭載できるトマホークミサイルを積んだ米艦船が呉港に入港するという危惧の中、呉におけるピースリンクの母体となる「トマホークの配備を許すな呉市民の会」を5月に立ち上げ、米駆逐艦メリルの86年8月入港とともに「被爆地が核の発射台になる」と訴え続け、ピーススピリットを17団体、89年から「平和都市ヒロシマの足元にある巨大な基地群の機能を問い、基地のないヒロシマを作り、ヒロシマが決して戦争に関わらないことをめざす」をスローガンに、民衆による「平和の輪（ピースリンク）」を構築するため23団体と個人で結成し、その後28団体になり今日まで活動を続けてきました。

しかし、91年4月の自衛隊として初の海外派兵となる掃海艦隊の呉からのペルシャ湾への派兵をきっかけに、PKO派兵、そして2001年「9・11」を口実に「テロとの戦い」と称して、補給艦「とわだ」などを呉からも、現在までのべ1,000日以上、アフガン攻撃を担う米艦船などへの燃料補給のため送り続けています。さらに、海賊対策と称して補給

艦をソマリア沖にまで派兵しようとしています。また、陸上自衛隊第13旅団からも04年、戦地イラクへの派兵が強行され、岩国では05年10月の日米合意で米軍の世界的再編の中、唯一海外（横須賀）を母港とする空母艦載機が厚木から移駐されようとしています。

この20年、飛躍的に「ヒロシマの基地群」が強化されたのは事実ですが、それらの動きに対して有機的に、抗議声明、座り込み、街頭宣伝、そして海上デモなど、「何より思い立ったら行動を」をモットーに一定の力になり得たと確信しています。

また、芸南火電阻止の住民運動から反トマ運動、そしてピースリンクへと34年にもわたって「ピースリンク広島・呉・岩国」、さらにヒロシマの市民運動を支えてきた湯浅一郎さんはこの4月、郷里でもある関東へと拠点を移すことになり、ピースリンクにとっても大きな節目の年になります。

ピースリンクでは3月7日（土）・8日（日）、前史を含めて25年余りの闘いを振り返り、新たなスタートとして記念シンポジウム、レセプション、海上デモを予定しています。ぜひ、ヒロシマへ。【集会情報は6面に掲載】

（新田秀樹／ピースリンク広島・呉・岩国）

イラクからの軍「撤退」を問う！◇集会へぜひ参加を！ ——ブッシュはなぜ靴を投げつけられたのか

マリキ首相と会見に臨んだブッシュが、イラク人記者に靴を投げつけられた。この日の会見は、アメリカ軍のイラク駐留に関する地位協定の締結を発表する場であった。この「協定」については、以下のような「秘密条項」の存在が指摘されている。

1. イラクの治安状況に応じて、米軍はイラク軍を支援するために軍事基地を設置する権限を有する。／2. この文書は協定であり条約ではない。／3. イラク政府もイラク司法当局も、イラクに駐留する米国市民および米軍要員を訴追する権限を持たない。／4. 米軍は、監獄をはじめとする治安施設を設置する権限を有し、それらの治安施設は米軍が運営する。／5. 米軍は基地内および移動の際、意のままに振る舞う権限を有する。イラク政府は介入する権限を持たない。／6. 米軍は、イラク政府の承認を得ることなしに、治安と安定を乱す個人を逮捕する権限を有する。／7. イラク諜報省、内務省および防衛省は今後10年にわたり米国の管轄下に置かれる（益岡賢さんといけだよしこさんの共同運営ブログ <http://teanotwar.seesaa.net/article/110329026.html>より）。

また、イラクの石油資源についてもアメリカの利権のもとに置かれることが、早くから指摘されている。

オバマの進めるイラクからの「米軍撤退」の背後に残るのは、こうしたイラク支配の実態である。

まったくのデタラメな理由によって、百数十万とも言われ

る民衆を殺傷するに至る戦争を仕掛けたアメリカは、「撤兵」を装いながら永久的なイラク（およびその石油利権）支配を目論んでいるのである。

そのアメリカに追随して派兵を繰り返した日本も、1月28日には、政権投げ出しの元首相・安倍が、イラクを電撃訪問し、経済・エネルギー分野での関係強化に向けた「日イラク・パートナーシップ宣言」に署名した。アメリカですら認めた誤り（間違った情報による開戦）をいまだに全く認めていない日本政府は、自衛隊派兵の対価とばかり、イラク復興ビジネスに積極的である。

新しい反安保行動をつくる実行委員会では、来る2月28日午後6時より、文京区民センターにて、表記の集会を準備している。「駐留米軍地位協定」の内容を中心に、米国のイラク支配のカラクリについて、国連問題にも詳しい武者小路公秀さんのお話を中心に、イラク派兵違憲判決を勝ち取った名古屋の仲間から「イラク派兵とはいったい何であったのか」について、さらに、「海賊対策」という名目の新たな軍事派遣が画策されているソマリア「海賊」問題についてその背景と実態についての報告を受ける。

オバマ登場で「転換(Change)」される「対テロ」戦争の実相と自衛隊派兵の現実を改めて考える機会としたい。ぜひご参加下さい。【集会情報は6面に掲載】

（梶野宏／新しい反安保行動をつくる実行委員会）

3・1 朝鮮独立運動90周年 和解・平和・友好の実現を求める 3・1 集会に結集を！

2009年～2010年の歴史の節目を真の和解と平和、友好の転換点に▶ 今年は、日本の植民地支配からの解放を求め朝鮮半島全土で人々が立ち上がった3・1独立運動90周年にあたります。さらに来年は「韓国併合」から丸100年の歴史の節目にあたります。

しかし、日本では、昨年の田母神・航空幕僚長の論文問題に象徴されるように、いまなお加害の歴史を居直り正当化しようとする動きは後を絶ちません。そればかりか、加害の歴史に真摯に向き合うことなく、拉致問題を政治利用してあたかも日本人が一方的な被害者であるかのような世論作りが進行してきました。日本政府は、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）への「制裁」を繰り返し、日朝関係はむしろ最悪というべき状態に陥っています。とりわけ私たちは、在日コリアンへの人権侵害と弾圧を許すわけにはいきません。

こうした状況の中で、もはや不正常な関係を放置し続けることは、日本民衆にとって歴史的責任の放棄に等しいと思います。今年とはくに政権交代をはらむ総選挙を控えています。どんな政権であれ、①制裁を解除し日朝国交交渉を速やかに再開すること、②過去の清算を真摯に行うこと、③拉致問題もその一環として交渉を通じて速やかに解決すること——を強く求めていく必要があります。

私たちは、3・1独立運動90周年の今年から「韓国併合」100年の来年（2010年）の歴史の節目にかけて、日本と朝鮮半島の人びとの真の和解と平和・友好への転換点にしてい

たいと思っています。いま各分野の市民団体と共同して準備している3・1集会をその皮切りとして、多くの心ある皆様と共に声を挙げていきたいと思っています。【集会情報は6面に掲載】

民衆の連帯で東アジアの平和の実現を！▶ 昨年、韓国民衆はBSE牛肉問題をめぐるキャンドルデモで、再び民衆運動の大きな可能性を世界に示しました。改めて韓国民衆の闘いにエールを送るとともに、李明博政権がこれに対し報復弾圧を仕掛けていることに、国際的抗議の意志を表明するものです。

いま日本でも、新自由主義政策の破綻は誰の目にも明らかです。医療・年金・雇用の破壊など深刻な事態は、民衆の連帯した力の必要性を示しています。

他方で昨年は、米ブッシュ政権をして朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）に対する「テロ支援国」指定が解除されました。1月20日にはオバマ新政権が発足しました。オバマ氏は大統領選の過程で「敵対国の首脳とも無条件で会う」ことを表明してきました。私たちは、オバマ新政権が対話を通じて朝鮮半島の「停戦」＝準戦時状態に終止符をうち、恒久的平和協定締結、米朝正常化プロセスに向かうよう求めます。さらに私たちは、東アジア米軍のほとんどが駐留している沖縄・日本、韓国からの米軍撤退を求め続けます。そして民衆の連帯した力で東アジアの平和の実現を共にめざしましょう。

3・1集会への結集を心から呼びかけます。

（渡辺健樹／日韓民衆連帯全国ネットワーク）

「戦争と女性の人権博物館」日本建設委員会発足

2月7日、「『慰安婦』問題をつたえる 平和をつくる」をテーマに、東京ウィメンズプラザで「戦争と女性の人権博物館」日本建設委員会発足集会が行われた。「戦争と女性の人権博物館」は、日本軍性奴隷制度の被害者として「慰安婦」とされ、戦後も言語に絶する苦しみに耐えてこざるをえなかった韓国人軍隊「慰安婦」たちの長い沈黙を破った訴え、そしてそうしたハルモニたちの闘いを支えてきた挺対協（韓国挺身隊問題対策協議会）の運動の中から生み出された。挺対協が「戦争と女性の人権博物館」建設運動に踏み込んだのは、現在もやむことのない戦争で、女性の人権が破壊される状態が続いているからだ。繰り返されるレイプ、アフリカの内戦での「少女兵」の動員はその一例である。

2003年、イラク戦争の中で挺対協は日本軍「慰安婦」被害者の人権回復のため、そして未だ反省しない日本政府を告発し、再びこうした犯罪が起きないようにするため、「生きた歴史教育」「平和と人権」を伝える希望の場としての「博物館」建設を開始した。長い交渉と努力の末、ソウル市からソウル市西大門独立公園の片隅に敷地を提供され、地上3階・地下1階の博物館建設許可をかちとった。ところがその直後から、殉国烈遺族会、光復会など独立運動関連団体が、「聖地」に「貞操を汚された慰安婦」が入り込むことを許さないという「家父長制」的価値観に貫かれた暴言で反対・抗議を行った。

こうした動きに対する女性団体たちの批判も高まり、市民の間からの建設基金カンパも広がって、ようやくきたる3月8日の国際女性デーに、建設着工の鍬入れ式を行うところにこぎつけた。この日の企画は日本でもこの建設を支援する委員会を発足させるためのものである。

鶴飼哲さん（一橋大教員）がコーディネーターを務めて進められたシンポでは、尹美香さん（挺対協常任代表）、池田恵理子さん（アクティブ・ミュージアム「わたしの戦争と平和資料館」運営委員長）、新谷ちか子さん（「もうひとつの歴史館・松代」建設実行委員会）、君塚仁彦さん（東京学芸大教員・博物館学）が発言した。尹さんがこのソウルの「戦争と女性の人権博物館」建設のコンセプトと経過を語り、池田さんは、2000年の「女性国際戦犯法廷」を出発点とした東京・西早稲田の「わたしの戦争と平和資料館」が果たす役割を提起した。新谷さんは長野県松代の大本営地下壕建設にあたって設けられた「慰安所」資料展示室を開設するにあたっての地域住民との軋轢を解決する努力について報告し、君塚さんは、生活の場に根ざした「平和記念館」の重要性を訴えた。

東アジアの平和を実現する共同の努力の一つである、このプロジェクトへの支援を。（国富建治／事務局）

◆日本建設委員会webサイト <http://whrmuseum-jp.org>
◆tel/fax 03-6324-5737

米国ワシントンD. C.「帝国抜き安全保障：外国軍軍事基地に関する全国会議」 沖縄・日本からの声を届けるためのカンパにご協力を

2月27日(金)～3月2日(月)まで、米国ワシントンD. C. のアメリカン大学で「帝国抜き安全保障：外国軍軍事基地に関する全国会議」が開かれます。海外に約1,000の軍事基地を置き、軍事的覇権構造を構築する米国。日本政府が沖縄・日本に駐留させ自衛隊と一体化を進める米軍もこの一翼を担っています。これまで、自国(米国)の海外基地・軍隊問題に対するアメリカの運動体の意識は必ずしも高いとは言えず、また、「愛国心」「反テロ戦争」世論のなかで自国の軍隊を批判することはそう簡単ではなかったと言えます。今回の会議は、米国で広範に活動する平和・反戦、人権、女性、アカデミズム、労働組合、宇宙の軍事利用反対、反核などのネットワークが一緒になって、1)米軍基地とそれへの抵抗についての情報共有、2)米国の反基地運動の強化・拡大、3)米国内と国際的反基地運動の可視化、4)米軍の海外駐留基地を閉鎖・縮小させるため議会で圧力をかけること、を目的として開催されます。ペンタゴンでの座り込み、全体会、女性・環境・経済や金融危機・宇宙の軍事化などから基地・軍事を議論する分科会、具体的運動戦略、議員へのロビイングなどが予定されています。

ここに沖縄や日本から、反基地・反軍事化の声を入れていくことは、米国の反戦・平和の広範な運動のなかに米国の海外駐留基地・軍隊の問題を押し込み、米国の人びととの協働をつくる大きな第一歩となります。沖縄からは沖縄平和市民連絡会から高里鈴代さん、安次富浩さんから7名が参加を決めており、横須賀からも人を送り出す動きがつけられています。できるだけ

たくさんの方が会議に参加できるよう、ぜひ皆さまからのカンパをお願いします。(笠原光／ピープルズ・プラン研究所)

◎ワシントン会議カンパ振込み先

郵便振替口座：加入者名：アジア平和連合ジャパン

口座番号：00110-8-591451

◎締め切り：2月25日(水) ◎1口1,000円～複数口大歓迎

◎通信欄に「ワシントン会議カンパ」と明記してください。

◆**米国参加団体**：米国フレンズ奉仕委員会／アメリカン大学人類学部／東アジア-米国-プエルトリコ 軍事主義を許さない女性ネットワーク／友和会／宇宙の兵器と原子力に反対するグローバル・ネットワーク／政策研究所／南東部労働組合／平和と正義のための連合／アメリカ平和委員会／カリフォルニア大学リーダーシップ開発および太平洋・アジア・北米宗教学研究／平和のための帰還兵

◆**ワシントン反基地会議参加・カンパ呼びかけ団体**：核とミサイル防衛にNO! キャンペーン／沖縄平和市民連絡会／ピースリンク広島・呉・岩国／ピープルズ・プラン研究所／フォーラム平和・人権・環境

◆**ワシントン反基地会議賛同団体**：すべての基地に「No!」を・ファイト神奈川／厚木基地を考える会／相模補給廠監視団(2月13日時点)

憲法を読む◇危機[ピンチ]を好機[チャンス]に!

『エコとピースの交差点——ラミス先生のわくわく平和学』

C・ダグラス・ラミス+辻信一著／大月書店／1200円+税

沖縄に住む政治学者C・ダグラス・ラミスへの環境運動の理論家辻信一のインタビュー本、いや両者の対談本。でもなく、おそらくその中間ぐらいの性格の本が、この『エコとピースの交差点』である。

「はじめに」で辻は、こう書いている。

「物質的な豊かさを誇っているはずのぼくたちの社会で、実は『生きていることを楽しむ』文化的な能力が、萎縮している。だからそこでは『環境』や『平和』や『人権』が禁欲的な『きれいごと』のようにさえ感じられてしまう。そしてまるで共生よりも競争の方が楽しげで、豊かな生態系よりもコンクリートだらけの人工的な風景の方が美しく、戦争しない国よりも戦争する国の方により多くの歓びがあるかのような倒錯した幻想がまかり通る」。

「本書のための対談が行われた夏以降、世界は『世紀に一度』とも言われる『金融危機』で上を下への大騒ぎとなった。ふたつの意味で、ぼくたちは今までに増して注意ぶかくラミスさんのことばに耳を傾けるべきだと思う。／ひとつは、こうした『危機』が、しかし、同時にエコでピースな世界を望むぼくたちにとって大きな政治的な意味を担っているということ。たとえばラミスさんは、本書第3部の冒頭にある『危機状態という落とし穴』で、権力者が人びとを支配し、管理する

ために『危機状態』を利用し、必要なら『危機』をつくり出しさえするという点について論じている。／もうひとつは、こうした『危機』が、しかし、同時にエコでピースな世界を望むぼくたちにとって、好機でもあるのだということ。それは、これまで『あたりまえ』だとか、『常識』だとか、思われてきたことのおかしさや、ばかばかしさに気づくチャンスなのだ」。

本書の対話は、まちがいなく私たち読者の「経済は成長しなければいけない」という「常識」を核とした、多様な「常識」＝「あたりまえ」自体を根本的に疑う、具体的な問いに、満ち満ちている。そして、この「金融危機」の渦中を生かされている私たちは、これを好機に転ずる、チャンスこそ生きているのだという実感を持つことが、この問いを共有することで可能となるのだ。またラミスの「自伝」の聞き書きという性格をも持っている点も本書の魅力である。

さらにインドのガンジーを結局、国家の暴力(軍隊)の存在を認めてしまった人物(思想)と評価する通説に抗して、「村共和国」ともいふべき分権・自立の思想に基づくトコトン非暴力(非軍事)の人物(思想)と読みぬく、ラミスの「ガンジーの憲法」についてのユニークな論評にはげまされるのは、私だけではないだろう。(天野恵一／事務局)

反改憲ニュースクリップ

2009年1月29日～2月10日

「迷走国会」の裏で着々とすすむ ソマリア派兵

【1月29日】〈米兵自殺〉米陸軍で昨年自殺した兵士は128人で、自殺の可能性がある死亡者も15人に達していることが明らかになった。自殺者数は、過去最高だった2007年の115人を大きく上回った。この数は、統計を取り始めた1980年以降最多となる。

【1月30日】〈失業〉厚生労働省は昨年10月から今年3月までに職を失う非正社員が、全国で12万4,802人に上る見込みだと発表した。昨年末調査の1.5倍で、11月に調査を始めて以来、初めて10万人を超えた。また、今春の就職予定者のうち内定を取り消された大学生や高校生は、昨年末調査から6割近く増えて1,215人となり、厚労省に記録が残る1993年度以降、過去最悪を記録した。**〈教科書検定〉**教科書の執筆者や編集者らで構成する社会科教科書懇談会の石山久男世話人が文部科学省で会見し、2009年度から使う高校日本史教科書で沖縄戦の「集団自決」（強制集団死）について「日本軍に強制された」という記述の復活は「印刷期限を考えると不可能になった」と述べ、再訂正申請を断念する意向を発表。教科書会社側が訂正申請による記述復活の要望を拒んだことなどを理由に挙げた。**〈ゴランPKO〉**政府がPKO協力法に基づく中東・ゴラン高原の国連兵力引き離し監視軍への自衛隊派遣の期限が3月末で切れるため、9月30日まで半年間延長することを決めた。また国連の要請を受け、今回から輸送業務を担う司令部要員を1人増員する。

【2月1日】〈ソマリア派兵〉アフリカ・ソマリア沖の海賊対策で、防衛省が陸海空3自衛隊の統合運用を検討していることが明らかに。中東カタルの米軍司令部に空自連絡官を置く方針を固め、P3C哨戒機部隊が派遣されれば、空自のC130輸送機で日本から物資を定期的に運ぶ。海自の拠点となるジブチでは、陸自による基地警備が可能か検討を始めた。実現すればPKOで初の統合運用になる。

【2月3日】〈ソマリア派兵〉海上自衛隊が、アフリカ・ソマリア沖の海賊対策で海自呉基地所属の第8護衛隊の護衛艦「さざなみ」と「さみだれ」の2隻を、海上警備行動の発令後に現地へ派遣することを決めた。隊員の派遣規模は400人程度になる見込み。

【2月5日】〈米艦の寄港〉神奈川県横須賀配備の米海軍第七艦隊の旗艦「ブルーリッジ」が長崎に寄港。同艦の長崎寄港は1995年以来の2回目。米海軍は目的を「友好親善・交流」と説明している。現地では、平和、労働団体などが寄港に抗議した。核保有国である米国の軍艦の長崎寄港をめぐっては、港湾を管理する県、長崎市が「被爆地の市民感情を理解してほしい」などと日米両政府に回避を要請したが、米海軍は予定通りの入港を決めた。**〈南京事件〉**南京事件の研究書

で事件の被害者とは別人と指摘され、名誉を傷つけられたとして、中国人の夏淑琴さんが、著者で南京大虐殺否定派の東中野修道・亜細亜大学教授と出版元の展転社に損害賠償を求めた訴訟で、最高裁第1小法廷が教授と同社の上告を退ける決定をした。これで東中野教授と同社に計400万円の支払いを命じた下級審判決が確定した。**〈反核活動禁止は違法〉**英国の控訴院が同国のオルダーマストン核兵器工場周辺での抗議活動を禁じた国防省規則を、全員一致で違法とする判決を言い渡した。適法とした一審判決を覆したものの、訴えていたのは、テントを張って抗議活動を続ける女性団体「オルダーマストン女性平和キャンプ」。同グループは1985年にキャンプを設置。以来、毎月第二週の金曜夜から土曜昼まで集まり抗議活動を行っている。これに対し英国国防省は一昨年、工場境界フェンス周辺の管理地内でのキャンプを禁じる規則を導入。これを「欧州人権条約が保障する表現と集会の自由に違反する」と司法審査に訴えていた。

【2月6日】〈外国人の失業〉厚生労働省が、企業などの人員整理に伴い昨年12月から今年3月までに約5,600人の外国人非正規労働者の失業が見込まれるとの調査結果を、自民党の会合で明らかにした。調査は全国の労働局が昨年12月から今年1月に把握した外国人の事例を集計したもので、派遣・請負契約の打ち切りなどが多い。

【2月9日】〈麻生支持率さらに下落〉朝日新聞社が実施した全国世論調査によると、麻生内閣の支持率は14%で、内閣発足以来最低だった前回調査の19%をさらに下回った。不支持率は73%に達した。衆院選の時期については、「できるだけ早く」が60%にのぼり、「急ぐ必要はない」は31%だった。

〈英国の郵政民営化は「反対」〉英通信労働組合が公表した世論調査結果によると、政府が100%の株式を保有する郵便事業会社ロイヤル・メール（RM）への一部民間出資について、75%が反対し、賛成はわずか6%にとどまった。公共サービス低下を懸念する英国国民はこれに反対。特に、外国資本によるRMの株式取得については嫌悪感が強く、約9割が否定的な見方を示した。

【2月10日】〈ソマリア派兵〉海賊対策でアフリカ・ソマリア沖に派遣される海上自衛隊の「さざなみ」と「さみだれ」の護衛艦2隻が初の対処訓練に向け海自呉基地を出港。豊後水道付近で機関銃などを使った水上射撃訓練を行い、派遣が検討されている特殊部隊「特別警備隊」も参加する。**〈日産のリストラ〉**日産自動車は本年度中に世界のグループ従業員の1割弱に当たる20,000人（うち国内12,000人）を削減すると発表。日産自動車は同日、世界経済の悪化に伴う自動車市場の低迷を理由に業績予想を下方修正したが、昨年12月末現在で剰余金（利益剰余金と資本剰余金）は約3.3兆円ある。**〈朝鮮戦争の賠償〉**朝鮮戦争開戦直後に韓国で左翼とみなされ、警察などに処刑された「蔚山国民保導連盟」加盟者の遺族508人が、韓国政府に損害賠償を求めた訴訟で、ソウル地裁は計約3億4,000万円の支払いを命じる判決を下した。**〈イスラエル右派が勝利〉**イスラエル総選挙が即日開票され、国会定数120議席のうち現与党の中道カディマが28議席を獲得、右派リクードの27議席を上回った。しかし全体では右派ブロックが計65議席と過半数を占めた。

私も一言 81

奥山たえこ(杉並区議会議員)

天皇伝説追っかけ!?

上映拒否の相次いだ映画『靖国』を地元で観た折り、明後日横浜で、天皇タブーに触れた『天皇伝説』が上映されると聞いた。右翼が抗議に集結するので安全が保てないとかで、各地で会場使用の取消しが相次ぎ(上映は、公共施設を利用している)、渡辺文樹監督は逮捕され長期の拘留をくらう、いわくつき映画。10月14日、怖いもの観たさに横浜開港記念館に出かけた。上映予定の10分過ぎに着いたら、街宣車が1台、軍服姿の男性が一人マイクを握って「表現の自由が……」と訴えていた程度でやや拍子抜け。100人もいない会場で、安

全に鑑賞した。後に見た『創(つくる)』のブログ(写真付き)によると、その1時間前ころは騒然としていたらしい。

その数日後、近所に『天皇伝説』の看板(勝手に電信柱にはりつけるのが監督の手法)があった。山田宏区長のことから、きっと使用許可取消にするなと思い、課長に尋ねると、ただいま検討中の由。そしてやはり区は使用を取消しにした。監督はすぐに東京地裁に申立て。地裁は「表現の自由」は保障されていると、杉並区の訴えをしりぞける決定を出し、上映実施が決まった。

当日10月31日、今度は30分早く着いた。会場の内外には、区の職員だけでなく私服警官が数名巡回しているものの、それらしい人たちは一向に現れない。手持ち無沙汰の職員に尋ねると、前日予定通り上映した墨田区では区役所に抗議があったものの、会場には現れなかった由。杉並でもまったく問題なく、この日も最後まで観た。

結局、右翼の皆さんも映画の追っかけをするほど暇ではないらしい。「右翼に襲われる!」という恐れも、多分に伝説なのかもしれないね。

集会・行動情報 2/21~3/9

▶2/21(土) 記念講演「沖縄基地に関する諸問題」

◆池宮城紀夫(辺野古新基地建設反対弁護団)◆19:30~◆中野勤労福祉会館・3F◆500円◆主催:沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック(090-3910-4140)

▶2/22(日) 2009年非核と平和のつどい in 福岡

◆10:30~「アメリカばんざい」上映/13:00~講演:池田香代子◆パピヨン24ガスホール(福岡市博多区千代1-17-1)◆一般1000円/学生500円/託児所あり(要予約)◆主:同つどい実行委員会(092-483-0431 内藤)

▶2/24(火) イラク戦争を考える連続講座/第46回「冬の兵士」上映とお話◆田保寿一◆19:00~◆世田谷区烏山区民センター3階(京王線千歳烏山駅下車)◆800円

◆主:今とこれからを考える一滴の会(03-5313-1525)

▶2/28(土) イラクからの軍「撤退」を問う!◆武者小路公秀、稲葉雅紀、ほか◆18:00~◆文京区民センター・2A(地下鉄都営三田線春日駅すぐ)◆500円◆主:新しい反安保行動をつくる実行委員会(Fax:03-5275-5989)

◆主:新しい反安保行動をつくる実行委員会(Fax:03-5275-5989)

▶3/1(日) 3・1朝鮮独立運動90周年 和解・平和・友好の実現を求める3・1集会◆高嶋伸欣、金東鶴、西野瑠美子◆13:00~◆800円◆文京区民センター・2F(地下鉄春日駅すぐ)◆主:3・1集会実行委員会(日韓民衆連帯全国ネットワーク 03-5684-0194 ほか)

◆主:3・1集会実行委員会(日韓民衆連帯全国ネットワーク 03-5684-0194 ほか)

■『無防備平和——市民自治で9条を活かす』出版記念集会◆13:00~／清末愛砂／1000円／品川中小企業セン

ター・レクホール(品川区西品川1-28-3)◆主:無防備地域宣言運動首都圏ネットワーク(090-4434-4748)

▶3/5(木) ソマリア沖への自衛隊派兵に反対する3・5院内集会◆半田滋(東京新聞編集委員)◆14:00~◆参議院議員会館第2・第3会議室(地下鉄永田町下車)◆議員会館ロビーで入場券を配布します◆無料◆主:2009年5・3憲法集会実行委員会(03-3221-4668)

◆主:2009年5・3憲法集会実行委員会(03-3221-4668)

▶3/7(土) 5年間ありがとう! 立川反戦ビラ弾圧★最後の集会と打ち上げ◆石崎学、寺中誠◆13:30~◆三多摩労働会館(JR立川駅北口徒歩3分)◆主:立川・反戦ビラ弾圧救援会(042-525-9036)

◆主:立川・反戦ビラ弾圧救援会(042-525-9036)

■記念集会:反トマからの25年をふり返り、ヒロシマで何をすべきかを考える◆湯浅一郎、田村順玄ほか◆14:00~17:00◆呉YWCA(JR呉駅下車)／記念レセプション◆18:00~◆ビューポート呉(JR呉駅下車)◆主:ピースリンク広島・呉・岩国(090-3373-5083 新田)

◆主:ピースリンク広島・呉・岩国(090-3373-5083 新田)

▶3/8(日) 平和船団による海上デモ◆10:00~12:00◆海自呉基地潜水隊前集合(JR呉駅よりバス「潜水隊前」下車)◆主:ピースリンク広島・呉・岩国(090-3373-5083 新田)

◆主:ピースリンク広島・呉・岩国(090-3373-5083 新田)

▶3/9(月) ソマリアの海賊問題と自衛隊派兵を考える◆藤本俊明、小林アツシ◆会員以外:500円◆18:30~◆専修大学神田校舎1号館13A会議室(13階)◆主:けんぽう市民フォーラム(03-3221-4668)

◆主:けんぽう市民フォーラム(03-3221-4668)

事務局から~

◆ぜひ定期購読を! 年間定期購読費用(第4期:2008年6月~2009年5月/月2回発行/24号分)は4000円です。郵便振替口座をご利用ください。

◆本紙事務局(事務所)にはスタッフが常駐していません。事務局への連絡や購読申込み等はファクシミリか電子メール、お葉書が確実です。